

… 雨でも休まず：第131回、第132回 …  
**「若柳・嵐山の森」から**

- 活動1：森林整備に注力：6月5日(第一曜日)：参加費300円
- 臨時：FCC：“森のなりわい”を話し合おう。  
 6月7日(第一曜日)：糸長研究室と共に。森500円、シンポ1500円  
 \* 森は、生かしてこそだ。それをどうする。
- 活動2：里山交流の活動： 6月20日(第三曜日)
  - \* 森林整備班は、つらい・苦しい／下草刈りの季節 参加費500円
  - \* 緑のダム体験学校／県：企画部と共に
  - \* 主食のみ持参／副菜に旨いもの食わせる。 会員外700円
- ◎ “必ず申込” ボランティア保険等。T&F 03-3411-1636
- 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
- 服装：汚れて良い格好、着替え。 曾 足元の滑らない履き物。
- 持参：保険証の写し。作業を楽しむ“ゆとり・怪我をしない心構え”
- 第二期通常総会：6月20日(第三曜日)：相模湖交流センター  
 午後4時～。総会終了後、懇親会1000円

… 上流～中流～下流をつなぐ …  
何時の間にか活動は“桂川・相模川流域”を繋ぐ形になっていた。

- 森をつくる人々：FSC活動。
  - ・ 上流／大月で河西悦子さんの「大月・森つくりの会」が活動3年目を迎えた。
  - ・ 中流／相模湖町で「さがみ湖・森つくりの会／NPO緑のダム北相模：森林部会」
  - ・ 下流／兼松まゆみさんが「鎌倉・森つくりの会」を準備中だ。
- 森をいかす人々：FCC事業。
  - ・ 上流／森林地主・素材生産者・森林組合が一体となって協働を始めた。
  - ・ 中流／製材業者・工務店大工さん・家具建具屋さんが協働する。
  - ・ 下流／都市生活者が「住む権利」を主張して自らの住空間の設計を考える。

● 活動報告1／5月1日（第一土曜日）：それぞれに森を楽しむ。

連休は皆さん、“いろいろとご都合もありましょう”と森林整備は中止にして標題のようにした。以下、藤島仲間からの報告。

フジの花が満開の5月1日、快晴。ムササビも元気です。ゴールデンウィーク中にもかかわらず、この日の活動に10名が参加しました。クリ林ではツマキチョウや、ウスバシロチョウといったこの季節を代表する蝶が乱舞し、山ではオオルリやメジロなどの野鳥がさえずっていました。昼休みには、荒井さんが投網やフクロウのヒナをつかまえて飼っていた話など、幼少の頃の遊びの話を聞くこともでき、得した気分で帰路についた1日でした。

● 活動報告2／5月16日（第三日曜日）；里山交流：雨も活動の時間帯だけ避けてくれた。

1) 5月15日／生態系調査班は、夜間調査のために森に泊まる事にした。“入れて”と「エコ青年隊」が押しかけて11名参加。

「それでは、サービスしましょう」と篠田主任がムササビの滑空するところを見せてくれた。

陽がつるべ落ちの7時、あの巣箱に入居してくれたムササビ・ムー氏を全員で訪問する事にしてサシ足・シノビ足……、赤色灯で照らすとムー宅玄関からムーが顔を出

していた。20分ばかり静寂観察。

動いたッ。エーッ、ムササビってそんなに大きいの？。野鼠かコウモリ位のものかと思っていたが、ムー氏が表に出てくると何んと、少年猫ほどの大きさがある。それが一瞬、身をひるがえして空を飛んだ。ムー君、どうやら彼女を射当てたらしく、ジジ・ギュル・ルルルーとささやきあっていた。満たされて満足。

一段落後、夜っぴ焚き火を囲んで森を語りあった。



浜井裕子隊員(エコ青年隊)がFSC推進に協力を申し出た。

2) 5月16日／朝、白々の頃、雨が降り始めた。「雨でも休まず」だが、どうしょう。張り切っていた“シタール演奏”をどうしよう。7時、激しくなる雨に自宅事務局に電話すると参加中止の電話が続いていると言う。ヨシ、止めッ。演奏者のスシャマさんなど関係者に連絡した。突然、空が明るくなった9時少し前、急ぎ、駅に駆け付けると駆け付けると…、来るは来るは、一

体、どうなっているの？。結局、「飛び入り初参加4名+新宿カッパ村13名+エコ青年隊13名+川崎幸い町つくり4名+辻ガーデニング教室16名」を含めて72人の参加となった。「雨でも休まず」のモットーが完全に機能していたのだ。

- ・雨足が酷くなりそうと昼のおかず作り中止、演奏中止、来た人だけで交流センターで勉強会でもと覚悟を決めて食事準備も演奏も全て、中止の手配直後に“エーッ、天候好転。…と言う状況の中でベテラン森林仲間が“阿吽の呼吸”で全てが流れるように進んだ。特に、テキパキ・テキパキと音の出る90人分の昼食作りに取り組む鍋奉行班の動きには、目を見張るものがあった。

森林作業班の降りて来る12時には、ピッタリと間に合わせてしまった。鍋奉行班の見事なチームワークに感服・脱帽。

- ・環境問題に熱心な新宿カッパ村=損保ジャパンOB会は、森林活動支援金の差し入れ付きであった。そこで、これを参加者に報告して…、「今後、保険加入は、損保に加入の事」と通達した。



GPS（汎方位測定機器）操作の研修。

- ・午後3時、後片付けなど作業終了、本日の成果発表。3時30分、「では、さようなら」と言った途端、雨が降りだした。全くもって何なんだ。120%満たされて家路に着いた。

### ● 臨時1：やまなみ祭り／緑の日／4月29日（祭日：第五木曜日）

- ・祭り前日28日、春嵐一過、雲早く晴れ間、明日の準備に4名の参加。その日、森に野営。



- ・当日29日、抜ける快晴、森仲間は出たり入ったりの参加者多数。
- ・五月の緑萌る湖畔公園の正面ステージでは、様々なアトラクションに万を越える人々が集まった。
- ・昨年までは、真っ正面の一等地だ  
今日は、艇庫前の広々と芝生に好  
きに店開きさせて貰った。

出し物は恒例の鋸引き体験・木工教室で今年は少しのんびりと思ったが…、

- 1) 芝生・木陰の裏千家：栗田宗久さん（頸：細（みすい））お点前による茶席は、列ができる程の参加。茶も菓子も品切れの盛況に嬉しい悲鳴。終席後、宗久さん、芝生の上で伸びていた。

- 2) 吉永鴻一さんが友情参加でサキソフォンを持って駆け付けてくれた。茶席や体験の場所で懐かしの



栗田宗匠の流れるようなお点前を注視する

ど、玄人並のB G演奏してくれた。本人も自分の演奏に陶酔していた。そんなのが、一番宜しい。  
3)今年は、F C Cを根付かせたい。速水仲間が、檜チップを“ヒノキ風呂の素”とか言って売っていた。活動資金を捻出してくれるそうだ。荒井仲間工房の“小鳥の巣箱”に人気が集まっていた。

・一年で一番緑の美しい湖畔公園の一等席で終日、のんびりと森を楽しむこの至福。しかも、茶席に町の名士と共に吉永仲間の名演奏をB G Mで頂く茶一服。これを“至福”と言はずんば何んという。

### ● 臨時2：“川崎・子供の森つくり”／5月1日(第一土曜日)



川崎の千葉美佐子さんから新川崎のJ R操車場跡地に“川崎・子供の森”を作りたいとの相談を受けた。川上から川下を繋ぐ事が流域材を生かす事だし、都会のド真ん中の森つくりとは、どんなもんなんだの興味もあって“喜んで”と協働する事にしてベンチ、鋸引き体験などなどイベント道具一式を揃えて参加した。

先ず、J Rの操車場跡地のド広さに驚かされたが会場は、そのほんの一隅でも主婦：千葉さんグループの動員力と「子供の森」を作るスケールの大きさに驚かされた。従来のイベントとの違いは、親子連れが多く木の鋸引きより楽な竹引きに人気があり、持ち込んだ竹が品不足となった。それも中径も

のが良いらしい。都会ド真ん中との付き合いは、初めて戸惑う事多かったが、川下との交流は大切な事で腰を据えて進めたい。幸い町つくり研究会は、16日定例活動日に森を学びに来た。直ぐ、行動に移すこのグループは、森に倒している間伐材を買いたいと言った。

### ● その他の報告

#### \* 1、水源環境の保全・再生

県産材活用事業を核に…

#### ワーキング・グループ準備



黒川教授の指導を受ける



ここでも子供の列が出来た。

「上流～中流～下流」を繋ぐ県産材建築物推進活動を更に具体的なものにするため黒川教授のご指導を受ける事として4月27日再度、集まった。黒川教授のご指導は、「緑のダムの活動は、県が出した政策に物申すだけでは駄目だ。もっと建設的な「意見提案書のレベルにすべき」という事であった。この日も出席の全員

から沢山の生活に根付いた意見が出た。取り分け、川崎・横浜から参加の主婦・生活者の住宅に対する視点には、厳しいものがある。この日の意見は、整理して担当部署に提出する。第二回ワーキング／6月4日、10時～12時頃まで。場所未定、参加希望者募集。

## \*その2、県：環境農政部と接触

環境農政部／加藤部長から「緑のダム」の活動内容を知りたいと連絡が入って11日、活動の記録写真・県民集会・環境農政常任委員会・企画部とのやり取りなど記録コピーを持参して県庁を訪問した。佐藤林務課長、山中技官も同席。

県は、この3月に行革中期方針を出した。その内容は…、1)県行政の重点化、2)効率化・スリム化、3)県民視点に立つ、4)民間との協働連帯／内容は、NPOなど民間活力導入、三セク見直し。面会は、4)の方針に沿って実現したものと感じた。それにしても我々の意見を聞くという開かれた行政に少しでもお役に立てると言う事なら是非、そうしたい。当会の主張の骨子は以下の通りである。

先ずは、壊れて行く森林破壊を止めようと“森をつくる／FSC活動”を4年前に立ち上げた。来年4月には、国際FSC予備審査を申請する。森を“作くれば”これを“生かして”こそ始めて森が蘇る。されば、どうするか。昨年の通常総会で“森を生かす／FCC事業の創出”に取り組もうと決定した。その内容は「森林の持続的な維持・管理・保全には森林自体が経済性(お金を生み出す仕組み)を持たねばならない」と言う事である。では、この1年の当会の実践と検証はどうか。

捨てていた間伐材で作った兼松人形・丸太椅子・ベンチ・檜チップや斎藤校長による「緑のダム体験学校」、加藤岑夫仲間が「甲州古道復活、捨てている間伐材で相模湖町から受注した甲州古道道標」など、143万円の収入があった。総収入の19.7%である。たった143万円と言うなけれ。仮に神奈川県が検討している森林整備政策正味250億円とすれば53.5億円である。自助努力による森林経営の途を目指して本年は、これを30%に引き上げる。

森林は、50年、100年、1000年と長期で考えねばならない課題。

森林行政の問題点は、連続性を難しくする単年度予算と縦割りの組織、3年位ごとの人事移動。また、県の事業に企業会計の思想：P/L、B/Sの仕組みが無い事。今年は、行政にこの辺りの事も考えてもらおうじゃないか。

## ● 以下のような矛盾を解決して…、県は本気で行革をして欲しい。

1、県からある森林指導の依頼を申し入れて来た。森林指導員の謝礼金が15000円、指導補助員に5000円を出すと言う。何を基準にしたかを聞いたら県に規定があると言うから送れと申し入れた。これによると大学助手27000円、会社係長クラス25000円、自由業25000円、県職員係長には、給料以外に20000円である。例えば、当会の理事にして森林NPOカリスマと言われている森林指導のプロ：園田安男が15000円なのか。企業の部長クラスのキャリアを持つ指導補助員が5000円なのか。県は、往復旅費と昼飯代を引いて2000円ばかりでNPOを使う気か。金の問題を言っているのではない。

2、ある町行政から「新エネルギー源開発の調査」の協力を求められた。コンサルを頭に大学教授

等は、然るべき礼金を受け取ったが、善意のN P Oだから交通費も何も出ないと言う。国が法人として認めた組織をなんだと思っているか。700万円ばかりをドブに捨てたこのプロジェクトは、1年で打ち切り。何を馬鹿している。上記の内容を調べて正式に抗議する。

- 3、昨年、400万円の調査を某コンサルが引き受けて当会に20万円で協力依頼が来た。当会は、眞面目に取り組んだ。その調査の報告書の内容の3／4が当会の報告であった。  
残り380万円は、どこに消えたか。乗せられた当会が馬鹿か。

県は、行政改革の4本の柱の一つに「N P O・N G Oなど民間活力の導入；協働・連携」を掲げたのだからメリハリのある事をして欲しい。また、N P Oは、県に期待されるだけの自覚と力量で臨まねばならない。最近、いかがわしいN P Oが出没している。こここのところのチェックも必要だ。

## 小原宿本陣の役割と止宿

往時の清水家が、本陣の役割を担うと共に名主と問屋を兼ねていました。小原宿本陣は、参勤交替の大名や甲州勤番の役人、公家などの上級武士が止宿する宿泊所でした。その本陣の役割を担っていた清水家は、名主でした。名主は、村方三役と言われる税の取り立て、官営で付設した桶谷路沢からの導水していた水道の管理、村内の訴訟にかかる事とを治める役割を担っていました。

問屋とは、問屋役とも言われ、宿場を通行する者の人馬の指図、宿泊の手配などを宿場事務のすべてを統括していました。

甲州道中を利用して参勤交替をしていた大名は、信州（長野県）の1万5千石の飯田藩、3万石5千石の高遠藩、3万石の諏訪高島藩の3大名でした。

往時の大名宿泊に対応するために、助郷と加助郷の制度がありました。1村をなし、共に片繼宿場として合宿の与瀬宿と小原宿の助郷村は、現在相模湖町になっている往時の千木良村と若柳村、でした。加助郷村は、現津久井町の太井、根小屋、青山、三井、長竹と現城山町の中沢、上川尻、下川尻、小倉、葉山島と現相模原市の相原の11ヶ村でした。加助郷は、助郷村の3村が人馬を差し出せない場合に振当てる助郷でした。

助郷制度は、1637年（寛永4年）に出された「伝馬令」を発端として、1694年（元禄7年）に確立しました。

助郷は、宿場にとっては都合の良い制度でしたが、助郷村にとっては利益がもたらされる制度ではなく、両者の対立がありました。両者の不信感が生じ、話し合いが付かない関係村役人が道中奉行に訴える事が多かった。しかし、多くの関係村役人や定宿お仲裁に委ねられ、内裁というかたちで解決したようでした。次回は、甲州道中の往来について記録します。 （文責 中里）

- |  |   |
|--|---|
| 1) 6月5日(第一回)<br>森林整備に注力。                             | モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…<br>そして、沢山のご意見、参加下さい。   |
| 2) 6月20日(第三回) 里山交流<br>緑のダム体験学校<br>*第二期通常総会 活動後交流センター | 名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)<br>事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村<br>T & F 03-3411-1636 |
| 3) 臨時／ (6月7日)<br>「山・森のなりわい」：相模湖町                     | 協働団体／セブン－イレブンみどりの基金   |
- \* HP : <http://www008.upp.sp-net.jp/kitasagami>  
支援団体：WWFジャパン、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、住宅生産団体連合会